



# いふだより

このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、**第2号**  
教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

8月4日（金）、尾張旭市文化会館あさひのホールで教育講演会を開催しました。今年度は、講師にNPO法人ASTA共同代表 松岡成子氏、他3名をお招きし、『LGBTQ+出張授業』～すべての子どもが輝ける学校・学級づくりのために～』というテーマで講演をしていただきました。NPO法人ASTAは、LGBTQ+への理解不足が原因で起こる差別やいじめ、当事者の自己否定など、多くの問題改善を目的として活動しています。教育現場を中心に性的マイノリティについての啓発活動、家族に性的マイノリティ当事者をもつ方のための会、LGBTQ+当事者及び当事者かもしれない人が集まり交流する会など、さまざまな取り組みをされています。その中で松岡氏は、幼少期・青年期における正しい知識の普及が大切であると訴えています。また、当事者との対話を通して、「大切なのは性別や国籍、身体的特徴などではなく、人格や人柄であること」も伝えています。



教職員・関係機関・保護者・保育園関係者を含む多くの参加者たちは、LGBTQ+当事者及び当事者のご家族の方の体験や願いに対して、真摯に耳を傾けていました。また、参加者からの多くの質問に対して丁寧にご回答いただき、理解を深めることができました。以下に、講演内容を抜粋して紹介します。

- ・小学校、中学校、高校生くらいの子どもの中で、性自認や恋愛対象で思い悩んでいる子、不安を抱えている子は必ずいる。その時に周りの大人が、「世の中は男女だけではない生き方もあるんだよ」「恋愛しない人も当たり前にいるんだよ」と伝えることは、安心感を与えてあげることになる。
- ・戸籍にとらわれないことが重要なポイント。性のあり方は、「自分はこうなんだ」と自分自身が分かればよい。周りの人が決めつけたり、噂をしたりすることではない。
- ・グラデーションの中にLGBTQ+の人たちがいるのではなく、実はグラデーションの中に私たちすべての人がいて、その色の濃淡やポジションの違いで、たくさんのカテゴリーがある。自分もこの多様性というグラデーションの中の当事者に過ぎないということを、より大勢の人が感じ取れる日が来たら、その時初めて多様性がリアルに広がっていくのではないかと。
- ・ALLY（アライ）とは、上から目線ではなく、LGBTQ+当事者が抱える問題を理解して同じ歩幅で一緒に社会を変えようと動く人のことをいう。助けてあげるのではなく、助け合い、認め合える関係づくりが大切である。誰でも誰かのALLYになれる。

## 【質疑応答より】

○学校で今回のような内容を教えたときに、どのような手段があるか。

- ・「ReBit」という団体のHPに子ども向けの教材が用意されている。無料で利用できる。

○学校でできることは何かあるか。

- ・後手の対応ではなく、あらかじめ準備をしておく。特に着替え場所やトイレ。

(例1) 男女分かれた更衣場所の中に、さらにパーテーションを数個用意する。他の生徒も使うため、自然にパーテーションの中で着替えやすい。

(例2) 宿泊活動の入浴では、男子生徒の中で個室やシャワーを利用したい子がいる。女子生徒だけでなく、全生徒に個室やシャワー室の利用希望をきいてほしい。

- ・ALLYを可視化する。カミングアウトをいつでもできるという状況や環境をつくる。

(例1) 自分の使う言葉を一瞬考える。「男は」「女は」という人には相談にいかない。

(例2) 常日頃、「世の中には色々な人がいる」ということを伝える。

(例3) 保健の教科書に載っている『思春期になると異性に興味をもつようになる』という表現に対して、「同性を好きになる人もいるよ。」「好きにならない人もいるよ。」と付け加える。

## 【参加者の感想より】

- ・国、性別、生まれもった容姿など、様々なことで苦しんだり悩んだりしている人が身近にたくさんいることが、生の声を聞いてよくわかりました。支援ではなく支え合う大切さ、弱者ではなく対等な相手として認め合う大切さを強く感じました。
- ・性に関する捉え方は人それぞれで、大枠で捉えるのではなく、その人がどう感じているかを尊重することが大切だと改めて思いました。「人間力」という言葉を広めていくことも効果的だと感じました。
- ・良い意味で使っていたつもり言葉が、相手を傷つけていたかもしれないと知らされ、ドキッとしました。学校にどんな子が入学しても、安心できる場にしたいと思いました。
- ・学校現場では、男女で区別をすることがまだまだたくさんあるので、できることから区別をなくしていけたらと思いました。
- ・中学校教員としても、3人の女の子の母親としても、色々な考えや思考が認め合える学校生活・家庭を築いていきたいです。
- ・今までは「LGBTQ+」という枠組みがあるから、逆に差別につながっているのではないかと感じていましたが、当事者にとっては、自分の中のモヤモヤを言語化するためには必要だと感じました。「全てが個性だよ」と受け入れられるといいのかなと思いました。
- ・今まで他人事でしたが、そうではないと思いました。「周りにいないではなく、隠している。」本当にそうだと思います。特別なことではないと子どもたちに伝えたいし、学校でも小さいうちから教えるようになるといいなと思いました。
- ・「人間力」という言葉をこれからも使っていきたいと思えます。そして、世の中が「一人一人が笑顔でいられれば、それ以上何も問われない。それだけでいい。」となるように、自分自身がALLYになりたいと思いました。
- ・無知であることが一番怖いこと。パートナーシップ制度についても、男女というペアで見るのではなく、信頼できる人同士で生涯を共にするという見方で、住みよい世界にできたらよいと思いました。